

高津区おはなしアーカイブ

●山田 義太郎 (やまだ よしたろう)さん

昭和6年生まれ 85歳

川崎市高津区明津在住



◆ご家族のこと、家督のこと

家はねえ、大家族で14人で暮らしてたこともあったんだよ。兄妹は8人で、両親と祖父母、それに親戚の小母さんが一緒だったこともあったからね。私は長男です。

父は農業をやってました。田圃が9反、畑が4反ありました。

私、今はこうして元気だけど、20年ほど前に心筋梗塞で心臓が止まっちゃったことがあるんですよ。心筋梗塞の生存率って、100人に3人くらいって聞いたんだけどね。不整脈の後遺症があったけど、それも10年くらいで消えちゃった。

父がね、やはり心筋梗塞で亡くなったんです。血族としてそういう傾向があるんでしょうね。

父は昭和25年に49歳で亡くなりました。その時私は19歳だったの。一番下の子はまだヨチヨチ歩きしてたころですよ。

それでも相続の手続きをやらなくちゃならなくて、周りの大人にも尋ねたんだけど、何しろね、新憲法になって間もないころでしょう？法律も変わっちゃってるから、皆わからないっていうんですよ。

結局、家庭裁判所の前に代書屋ってのがいて、そこに委任状を出せば全部やってくれるって言うんで、頼んだんですよ。

それでも子どもたちが全員未成年だからねえ、裁判官とも相談して、それでも決めるのが難しかったらしいです。将来争いになってもいけないしということで、子どもたちが成人した時に土地を分けること、という条件付きで長男の私がいったん全部の家督を相続したんですけれどね。

法律って柔軟に対処できるもんだなあ后感心しましたよ。(笑)

昭和30年、24歳の時に結婚して、息子が2人、娘が1人おります。娘は結婚してつくば市にいて、孫が1人おります。

◆学校のこと

学校は橘尋常高等小学校でした。一学年に男女それぞれ25～30人くらいいまし

たね。近所の子どもが12～3人集まって、集団で登校してましたよ。

低学年のころは着物を着て藁草履を履いて通ってました。洋服を着るようになったのは3年生くらいからかな。なかなか洋服なんて買ってもらえなかったけどね。

そのころのおやつはサツマイモやトウモロコシでした。

1年生の時の宮田先生、それから稲垣先生のごことはよく覚えている。稲垣先生が亡くられた時には葬儀にも行ったなあ。

当時の友達とは4年に1回くらい同級会を開いて会ってました。

◆戦争のこと

私はね、6年生の時から学徒動員に行ったの。だからね、小学校の卒業証書を持ってないんですよ。学徒動員を終えてから、成人学校に1年間通って、そこは卒業しました。

学徒動員では新城駅近くの工場へ弁当持参で通ってました。そこで養成所ってところに回されて、旋盤の仕事を基礎から習ってネジ切りって難しい技術までやりました。機械が好きだったから、けっこう夢中になってね、おかげでずいぶんいろんな旋盤の技術を覚えましたよ。そこには4校から集められていたと記憶しています。横浜や大磯から来ていた者もいました。

戦時中のことでは、B29が3機編隊で頭の上を飛んでねえ、恐かったですよ。

蟹ヶ谷に海軍の通信施設があったから、それが目標にされてたんだね。爆撃されて、大きな、幹が一抱えもあるような松の木2本がスッパリ切り取られたようになってたのをよく覚えている。竹藪に焼夷弾が落ちて爆発したこともあった。

サツマイモの室（むろ）を防空壕にして入ってましたよ。15～6人は入れる広さだったね。

終戦は14歳の時でした。もう少し戦争が続いていたら私も徴兵されていたんじゃないかね。

玉音放送は家族そろって自宅で聞きました。でも言葉が難しくてよく理解できなかったですよ。

戦後になってから浅草の方まで墜落機を見に行ったんですよ。B29って細長くてものすごく大きいんだよ。本当にすごい。

◆家業のこと

私は長男だったから、ずっと父の手伝いで、農業をやらされてました。弟たちは鳩を飼って伝書鳩のコンクールに出場したりしてね。楽しそうに遊んでましたよ(笑)。でも私だけはずっと手伝い(笑)。

出荷はリヤカーを引いて五反田の市場まで売りに行ってました。目黒川を越えて、片道2時間くらいかかったよ。他に子母口や武蔵小杉、千年にも行ってました。

戦時中は米の供出ってのがあったでしょう？あれで自分ところで食べる分まで出さ

なきやならなかった。それで配給米を食ってましたよ。

昭和30年ごろから農業は変わってきました。畑作業に耕運機を使うようになったし、市場に行くにもオート三輪を使うようになって、ずいぶん楽になりました。

私はね、子どものころから働くばかりで、遊んだっていう記憶がないんですよ。父が亡くなってからは、もう一家を背負っていかなくちゃならなかったしね。

◆農業から造園業へ

昭和30年ごろから東急が土地を買い占めて団地ができました。その時に蟹ヶ谷の方にあった畑を売りました。

その後農業には見切りをつけて、植木の仕事をするようになりました。弟たちは皆サラリーマンになりました。私は植物の世話をするのが好きでしたからね。植木屋というよりは造園が主です。庭師ですね。

昭和49年には造園1級の検定を受けて資格も取りました。1級って180人ぐらい受けて25人くらいしか通らないんですよ。試験は3時間で100問もあるんだ。そのため何万円も払って講習も受けたよ。実技の試験は、重さ1トンの石を外へ運び出すって課題だったよ。最初に植木屋を始めるときには検定なんてなかったんだけどね。(笑)

親方たちも7人雇い入れたんですが、残ったのは2人だけだったね。

千年や子母口には同級生や知り合いがたくさんいるからね、誰かのところから頼まれると、そのまた知り合いなどから頼まれるようになるからね、おかげで仕事は順調でした。

仕入れは北農協に行きます。中原街道をずっと行った先の東方町（横浜市都筑区）にあるんです。県内では一番広くて、大きな競り市をやっているね、植木だけでなく、道具類も売りにきてるんですよ。千葉やら箱根なんかからも来ますよ。売りに来たり買いに来たりね。

北農協の競り市は、登録しておかなくちゃ入れないの。それで市場に入る時には登録番号を帽子につけてね、これを被っていくの。これが身分証明書みたいなもんだね。(笑) 心筋梗塞やってからは外の仕事はやめてますがね。



登録番号を付けた帽子

◆近所のこと

明津には当初7軒が暮らしてたんだ。田圃が多くて子どものころ一寸法師みたいにタイヤに乗ってたよ。(笑)

この辺りは土地が低いし水はけが悪くてね、大雨が降るとすぐ水浸しになってたんだ。昔に比べると排水がうんと良くなったからね。よほどの大雨でないと水に浸からなくなったもの。

昭和40年だったかな、灰津波っていうのがあったんだ。何人か亡くなったんだってね。この辺では何も影響はなくて、翌朝になってから聞いたんだけど。あれはね、工場から出た灰を捨ててたのが、雨で重くなって崩れたんだ。その後は、消防署が付近を封鎖してて当分近寄れなかったよ。

この辺には店がなくて、木月に商店街があったから、買い物はたいていそこに行ってたね。山口時計店という店があったな。

最近は店も増えたけど、10年くらい前から医者が多くなったね。

◆お祭りのこと

熊野神社では春と秋と2回お祭りがあるよ。戦後22年ごろね、祭りで青年団の素人芝居をやったな。「番場の忠太郎」とか、そういうのやってたな。馬は使わなかったよ。

子母口の橘樹神社に旅芸人が来たことがあって見に行ってたよ。

20年くらい前から子ども神輿も出るようになった。群馬の伊香保で作ったんだ。でも最近はお祭りの数が減ったから引っ張り手が足りなくてねえ、大人も一緒に引っ張ってるよ。(笑)

最近は盆踊りもやっていますね。

◆趣味や楽しみごと

同級生も減っちゃったから、皆で集まるってことはなくなってきたね。親しい友だちや養成所仲間とは時々あっていますよ。

趣味で鉄砲撃ちやってみました。長くやっていた友達に誘われてね。鳥を撃てる場所がないからねえ、猟場は長野に行っていました。キジと山鳥が獲れましたね。まだ植木の仕事をやってたころのことです。5年間ぐらいやってみました。楽しかったです。

(平成28年7月19日取材)